



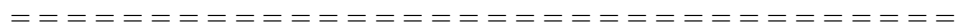
地域日本語支援ニュース こだま 第311号

2017.1.26



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。



■ともに生きる

麻布のまちについて

——「区長と区政を語る会」に参加して——

マッカーシー・モーガン

-----  
オーストラリア防衛省勤務のマッカーシー・モーガンさんは、家族とともに来日し、去年1月から（公社）国際日本語普及協会（AJALT）で1年間日本語研修を受けていました。息子さんが東京都港区のインターナショナルスクール（幼稚園）に通っていることから、区の施設などについて日頃感じていることを日本人の奥様と話し合っ、麻布地区総合支所「区長と区政を語る会」に出席しました。日本語研修で学んでいる日本語とは違い、ご自身の意見を述べ、他の方の意見を聞くことでよい経験ができたとの報告があり、ご寄稿いただきました。  
-----

平成28年10月27日（木）に麻布地区総合支所で10人の満15歳から30歳の人達が「区長と区政を語る会——10年～30年後の輝くあなたと麻布のまちについて」に参加しました。参加者は区内在住、在学、在勤などの方達でした。

皆さんは一人ずつ、麻布のまちが現在と比べて、10年～30年後、どのような状況になっていたら良いかということについて意見を発表し合いました。安全

安心なまちづくりや暮らしなどの話題が多かったです。参加者は自分の希望や要望について自分達が今後どのように関わり、活動、協力、連携していけたら良いのか、自分達に何が出来るのかという意見もし合いました。

参加者の意見に対して、区長は情報や麻布地区の未来の見通しを分かり易く説明してくれました。参加者と区側も積極的に懇談しましたので、非常にいい意見交換ができました。

麻布地区で、今後より一層良い生活が送れるように、このような区政の代表と話し合いの機会を持つことは大変重要だと思います。その他、2020年東京オリンピック・パラリンピックをはじめ、近いうちに様々な大規模なイベントが東京で行われます。世界中に東京の色々な場所が公開される前に、東京の素晴らしさをより良く見せることが出来るよう準備を進めるべきだと思います。

麻布地区は様々なことを計画し、力を入れて取り組んでいますので、輝く未来になることを大いに期待しています。

#### 【編者あとがき】

同席していた一般財団法人港区国際交流協会の事務局長によりますと、話し合いの場では、参加者から①麻布十番には高低差があるため、冠水対策など過ごしやすいまちづくりをしてほしい、②六本木ヒルズに安いスーパーがあったらいい、③駅に階段が多く、しかも階段が狭いため、お年寄りや子ども、体の不自由な方に不便で危険である、④公園にテーブルがあると人が集まりやすいといった意見が出たそうです。

麻布のある港区には70か国近い大使館があり、在住外国人も多いことから、まちづくりにもマッカーシーさんのような在住外国人の視点も取り入れていこうという区の意向が感じられました。

---